

※誌面イメージは製作途中のものです。



横浜・鎌倉 半日さんぽ

新書・256 ページ

定価：1210 円（本体 1100 円）

2021年8月下旬
発売予定

ちよっととした刺激を味わえるのが
さんぽの魅力。
王道の裏道、少し外れたルートなど
紹介の40コースはどれも1〜2時間。
その日の気分にあわせて
思い立った時にでかけよう。

第1弾の東京編も
大好評発売中!



昭文社

歴史、文化、自然を感じるさんぽコース。 歩くことでしか見えない風景がある——

茅ヶ崎の海岸を西へ、東へ

5万坪もあったサナトリウム
のどかな町は別荘地として発展

JR湘南新駅ラインで茅ヶ崎駅に着いた。新宿から乗り換えなしで約1時間だった。この地域に住んでいた頃、新宿から湘南は品川で乗り換える必要があり、遠かった。駅北口に出てみた。改札口から歩道専用の橋がビルにつながる。以前にはない風景だった。今日は茅ヶ崎駅南口の方を歩く。サザン通りから広大な高砂緑地にある美術館や松籟庵を見て、海岸線に出て、岡本田歩の碑、サナトリウム南湖院跡、東海岸の開高健記念館に行く予定。ルートを合理的に設定しにくく、意外な距離を歩くことになった。



2018年、国立現代美術館横浜分館に指定された旧第一校舎の外観

58



開高健記念館の玄関では自筆のことが読える

を右折すると、左側が南湖院跡地で昔の規模を想像させる大きな敷地だ。今は一部が南湖院記念太陽の郷庭園として一般公開され、奥に第一病舎の白い木造建物があった。結核療養所というよりもサナトリウムが似合う。庭園の西には富士山が見える場所があると説明されていたが、わからなかった。国道に戻り、次の目的地である開高健記念館へ向かう。さつき歩いてきた国道をま

た戻るのであまりに芸がない、と砂浜沿いのサイクリングロードを歩く。海を見ながら、波の音を聞きながら、海風に吹かれて歩く。こんなことは実に久しぶりだ。サイクリングロードからは松林があり国道は見えない。少しずつ沖合の風景が変化していく。海の色はくすんでいたが、江の島がだんだん大きくなり、鳥帽子岩が近づく。最も近づいたかと思つたところが東海岸だった。一中通りに行く歩道橋を渡り、次のラチエン通りを入ると約200m。左手に開高健記念館がある。ここは2度目。開高健は昭和49(1974)年、東京・杉並から転居し、1989年、ここで生涯を終えた。仕事場であり、家族と暮らした家を記念館として公開している。隣は茅ヶ崎ゆかりの人物館で、茅ヶ崎が別荘地として発展した時代、別荘を構えた九代目市川團十郎や茅ヶ崎ゆかりの人たちを紹介している。今日の散歩はここが終点。ラチエン通り、鉄砲道、雄三通りを経て茅ヶ崎駅に戻った。

モデルコース
JR茅ヶ崎駅～サザン通り～高砂緑地～高砂通り～徒歩道橋陣～国道134号線(海岸通り)～南湖院記念太陽の郷庭園～サイクリングロード～ラチエン通り～開高健記念館～JR茅ヶ崎駅

DATA
高砂緑地/茅ヶ崎市東海岸北1-4-50、入園自由
南湖院記念太陽の郷庭園/茅ヶ崎市南基7-12999、10:00～16:30(11～3月は～18:00)、水・木曜休、無料
開高健記念館/茅ヶ崎市東海岸南6-6-64、10:00～18:00、月～木曜休(祝日の場合は閉館)、入館料200円(茅ヶ崎ゆかりの人物館との共通観覧料は300円)
さんぽ時間 ●約2時間50分
さんぽ距離 ●約9.3km

65 第一章 1比海の風景を歩く

開高健
昭和5(1930)年、大阪生まれ。海軍(現防衛庁)入社。昭和30(1955)年、東京に転居。同33(1958)年に芥川賞を受賞。朝日新聞ベトナム戦争海外特派員でベトナム戦争を前線まで取材。死後を体感する。世相に鋭く切り込む文章も人気がある。茅ヶ崎では選に2回、水泳教室に通い、ラチエン通りの海屋そば屋などに立ち寄ったという。

ラチエン通り
ルドルフ・ラチエンは明治35(1902)年にドイツから来日。ドイツ製品の輸入会社を経営し、グイムラー・ペンなどを作った。開港大震災を機に横浜市から茅ヶ崎市に移住。日本人と結婚し、自宅から身まで板を繋がる活動を行い、板通と呼ばれる通はいつしかラチエン通りの愛称になる。東海道から海までまっすぐに延びる道。

62

海の風景や浴線ひと
駅さんぽ、隠れス
ポット満載のコース
など、さんぽテーマ
を変えた5章仕立て

モデルコースの所要目安
時間、距離を記載

街歩きライターによる
おすすめスポットとコラム

横浜・鎌倉半日さんぽ

定価：1210円(本体1100円) ISBN978-4-398-14755-4

部

ご注文日： 年 月 日

■お問い合わせ・ご注文

TEL 03-5625-4167

FAX 03-5625-4179